

早稲田大学 政治経済学部 漢文 講評

〔総合分析〕

<p>試験時間</p> <p>国語 90 分（現代文 2 問 古漢融合 1 問）</p> <p>出典</p> <p>『莊子(そうじ)』外篇 天運第十四</p> <p>解題</p> <p>戦国時代の莊子(そうじ)の著。「老子」と並んで道教の基本経典。現行本三十三篇は西晋の郭象が整理編纂したもの。</p>
--

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
一	問八	<p>〈指示対象〉</p> <p>「之」の用法と文脈の把握が基本となる。七箇所「之」の内、「里之醜人」と「里之富人」「曠之所」は「の」と読んで指示代名詞ではない。「美^レ之」は指示代名詞だが「西施」を指す。二箇所ある「見^レ之」は、構造的にも対になっていて、共に「醜人」を指すことの判断は平易。判断に迷うものは「去^レ之」の指示代名詞である。「之」で、貧人が妻子を連れて「醜人」の元から去るのか、貧人の住んでいる所から去るのかの二つの解釈が考えられるだろう。前の句の富人が門を閉ざして外出しない記述と対にして考えると、「去^レ之」の「之」は場所を示すと考えられる。よって「醜人」を指すものは二つ。</p>	標準
	問九	<p>〈返点〉</p> <p>基本問題。昨年に引き続きの出題であるが、それ以前の十年間政治経済学部で返点を付ける設問は出題されていない。漢文の基本構造を踏まえ、動詞と目的語・打消の句形を捉えることがポイント。</p>	標準
	問十	<p>〈傍線部訳〉</p> <p>「彼」の指す人物を特定する点と、理由の意を表す常套句「所以(ゆゑん)」を内容を含めて正確に解釈する点が鍵。近似した選択肢に惑わされず、傍線部の内容に忠実な選択肢を見出す読解力と判断力が要求される。選択肢イは主語の「富人は」が、ハは主語の「西施は」が、ニは「自分が美しくないか」が、それぞれ不適。</p>	標準

	問十一	<p>〈常識〉</p> <p>引用の本文が、設問となっていることわざの原点であるが、本文の内容からことわざを思い付くことも難しい、また、ことわざ自体も馴染みのあるものとはいえないであろう。「ひそみ（鬢）に倣う」は、引用の本文に見えるように、春秋時代の越の美女西施がやんで咳こみながら顔をしかめたさまを美しいものとして、醜人がその顔をまねたという故事から、事の上しあしを考えず、いたずらに人のまねをする意。また人にならって事をするを謙遜するという意である。</p>	やや難
--	-----	---	-----

〔総合コメント〕

難易度

標準。昨年比べやや易化。

分量

減少。昨年・一昨年と漢詩が出題され、分量の点で変動があったが、散文が出題された 02 年の『史記』が 85 字・01 年の『会真記』が 74 字であったことに比べると、本年は 61 字で短めの本文と言える。設問数も昨年の 5 問から 4 問に減少した。

出典

まれ。例年『莊子』は数校の大学の入試の出典となるが引用の箇所が出題となることは稀であろう。

形式

問十一は成語についての知識を問う設問でいささか難解なものと言えるが、その他は出題形式として特異なものはない。各問とも、漢文の設問としては典型的なもの。